

熊本大学環境報告書

eco act 2017

えこあくと

Environmental Report
2016年〈平成28年〉度版

12年目のえこあくとで見る
エコ・キャンパスへの

「努め方」



創造する森 挑戦する炎

井上雄彦 記す



熊本大学
Kumamoto University

木々が連携し共生する森のごとく、熱い志を持ち高め合う炎のごとく。世界を豊かにする研究・教育に取り組む。

■ 黒髪キャンパス

文学部・教育学部・法学部・理学部・工学部

■ 本荘キャンパス

医学部(医学科・保健学科)

■ 大江キャンパス

薬学部

「創造する森 挑戦する炎」には、本学が熊本の地で長年培ってきた次の3つの特質をわかりやすく伝えたい、そして今後も守り育てていきたいという想いが込められています。揮毫は、かつて本学に在籍された漫画家・井上雄彦氏にお願いしました。

- 地域に身近で世界とつながる、機動力あふれる総合大学
- 実践的課題解決力を持ち粘り強く取り組む、パワーリーダーの育成と輩出
- 歴史や環境を活かして社会が求めるイノベーションを創出する、知的専門家集団

復興と エコキャンパス実現に向けて 一つひとつ努める



2017年度の熊本大学環境報告書「えこあくと2017」を公表します。この報告書は2016年度の本学における環境配慮活動をまとめたものになります。

さて2016年（平成28年）度は、さまざまな自然災害に熊本は見舞われました。前震・本震という二度の激しい揺れに襲われた熊本地震に続き、熊本豪雨、阿蘇山の噴火がありました。自然の偉大さを感じながらも、自然災害の怖さが、様々なところに刻まれることになりました。特に熊本地震では、熊本大学も多大な被害を受けました。しかし多方面からの暖かいご支援によって、現在は、ほとんどの設備と備品が地震前の状態に復旧しつつあります。これからは、震災以前よりも飛躍した熊本大学をお見せるために、一步一步、復興に向けて教職員一同の活動を活性化させたいと思います。

熊本大学は、熊本地震からの復興だけでなく、エコキャンパスの構築に向けて、一つひとつ努めています。2016年度の環境負荷データでは、原単位エネルギー投入量は、6年連続の削減、原単位温室効果ガス（二酸化炭素）排出量も4年連続で削減させています。このような環境負荷データの削減は、長年の熊本大学における環境配慮活動の賜物だと確信しています。

熊本大学では、環境報告書の公表が法令により義務化されてから、さらに積極的に環境配慮に関する活動を進めてきました。現在は、2ヶ月に1回開催される施設・環境委員会で、副部長クラスが集まり、環境配慮に関する審議を行っています。

また環境配慮活動に関する計画などは、その委員会の下部組織である環境マネジメントワーキンググループ（WG）によって行われています。2016年度には、環境マネジメントの監査において、専門知識をお持ちの外部の方をお願いしました。熊本大学で行っている環境配慮活動を改めて見直すことができました。

「えこあくと2017」の表紙は、熊本県下のスーパーグローバルハイスクール（SGH）またはスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されている高等学校の生徒です。熊本大学における環境配慮に関する研究のインタビューをお願いし、高校生の視点で研究内容を紹介していただきました。研究拠点大学の研究が、地域に貢献する大学の高大連携によって紹介される事例となりました。

熊本大学は、様々な困難に対面してきました。しかし、ご支援を受けながら教職員が一丸となって乗り越えてきました。これからも熊本大学の研究教育拠点、地域貢献、国際化した大学として、有為な人材を育成しながら、熊本大学のスピリッツを伝える「創造する森 挑戦する炎」を胸に邁進したいと思います。その先に、環境に対して配慮できる人材が育ち、最先端の研究が行われても環境に優しいエコキャンパスが構築できると信じております。

2017年9月

国立大学法人熊本大学
学長

原田 信志



エコ・キャンパスへの努め方



002

トップメッセージ

003

CONTENTS

目次と2016年度の概要をご紹介します

学生の視点

熊本大学の環境に配慮した活動を学生の視点でご紹介

007

01 通学

009

02 講義室

011

03 休憩時間

012

04 食堂・売店

013

05 ゼミ室・研究室

エネルギー
投入量
(延床面積原単位)は
6年連続
で削減しています

015

トピックス File.01

016

自然共生スタイル

自然共生社会に向けての活動についてご紹介

017

研究01 有明海・八代海の自然環境の再生・創生を
目的とする総合的・実践的研究

インタビュー = 皆川 朋子 准教授

019

研究02 閉鎖性海域における豊かな
自然環境・社会環境創生のための
先端科学研究・教育の拠点形成

インタビュー = 瀧尾 進 教授

021

研究03 地下水資源の持続戦略的利用を実現する
流域圏ランドデザイン研究

インタビュー = 伊藤 紘晃 助教

023

研究04 メソ領域科学研究拠点

インタビュー = 北村 裕介 助教

025

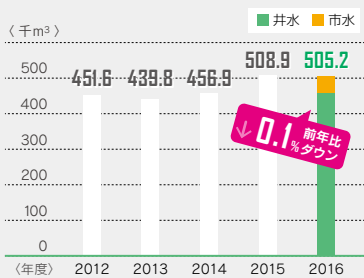
取組01 緑化

キャンパス整備の一環で、
緑地の維持管理を行っています

水資源投入量は約**0.1%**
減少することができました。

水資源投入量

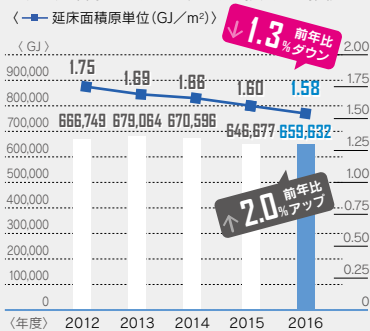
●過去5年における水資源投入量の推移



エネルギー投入量(約2.0%増加)
延床面積原単位は約**1.3%**
削減することができました。

エネルギー投入量

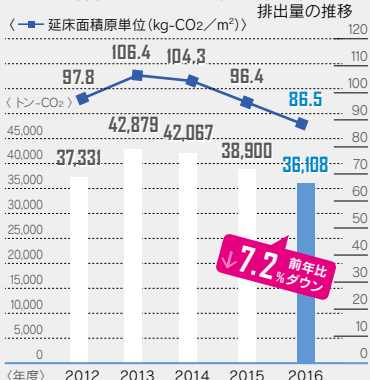
●過去5年におけるエネルギー投入量の推移



温室効果ガスは約**7.2%**
削減することができました。

温室効果ガス

●過去5年における温室効果ガス(CO₂)

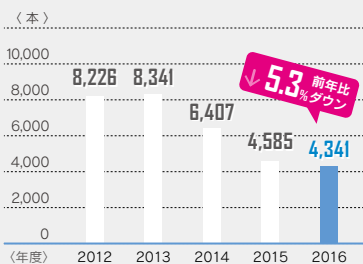


熊本大学 12年目の「エコあくと」で見る

照明器具類購入量は約5.3%削減することができました。

照明器具類購入量

●過去5年における照明器具購入量の推移



熊本大学環境報告書

編集方針

国立大学法人熊本大学は、2006年(平成18年)から、本学が行っている環境負荷低減を目指した環境配慮活動を環境報告書「エコあくと」にまとめて公表しています。「エコあくと(eco-act)」は、崎元 元学長が親しみやすい、読みやすい書名として付けました。今後も、高校生・大学生を含めた読者の方々とのコミュニケーションツールとして十分な機能を果たせるよう、さらに読みやすく、充実した「エコあくと」を目指します。報告事項の特定と編集設計は、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年版)」とGRI(Global Reporting Initiative)の「サステナビリティ・レポート・ガイドラインG4」を参考にしています。

027

取組02 キャンパス美化／生物多様性／節水

持続的資源を保ち、さらにキャンパス美化を行います

029

取組03 化学物質の管理

化学物質管理の徹底を図っています

031

部 局 沿岸域環境科学教育研究センター
合津マリンステーション

033

部 局 薬用資源エコフロンティアセンター
葉草パーク構想

035

トピックス File.02

036

低炭素スタイル

低炭素社会に向けての活動についてご紹介

037

研究01 KUMADAIマグネシウム合金の
国際先端研究拠点

インタビュー = 井上 晋一 共同研究部門教員

038

部 局 先進マグネシウム国際研究センター

039

研究02 創エネルギー物質化学(EnMaCh)

インタビュー = 吉本 惣一郎 准教授

041

研究03 パルスパワー科学研究所

インタビュー = 赤井 一郎 教授

042

部 局 パルスパワー科学研究所

043

取組01 エネルギーを作る

工夫してエネルギーを作っています

045

取組02 ハード面の整備

計画的に省エネルギーを図っています

047

取組03 ソフト面の活動

協力し合って省エネルギーを図っています

049

トピックス File.03

050

循環型スタイル

循環型社会に向けての活動についてご紹介

051

取組01 廃棄物対策

“分別の徹底”と“廃棄物排出量の定量”を行います

053

部 局 環境安全センター

054

環境教育

全学的にまたは部局で行われている環境教育をご紹介します

01 教養教育「ベーシック」

02 環境ISOの取得

学生の取り組み

熊大生が主体となって行っている活動や取り組みをご紹介します

055

01 紫熊祭実行委員会の活動

02 リクラブ

056

03 生協組織部

04 熊大ソーラーカープロジェクト活動報告

熊本大学の研究・教育人

環境に関する取り組みを行っている教職員の一部をご紹介します

057

教員紹介 教育学部／法学部／理学部／工学部／
大学院生命科学研究部(臨床系)／
沿岸域環境科学教育研究センター／
環境安全センター

Information

環境報告書データ一覧

基本情報

062

組織図／構成員数／財政

063

各地区の位置／延床面積

063

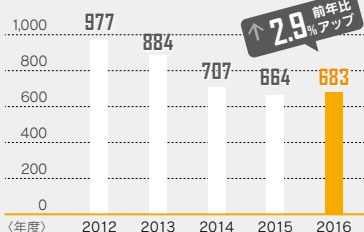
えこあくとコラム No.01

可燃物排出量は約2.9%
増加しました。

可燃物

●過去5年間に於ける可燃物排出量の推移

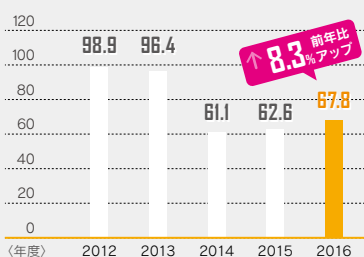
(トン)

リサイクル原料収集量は約8.3%
増加しました。

リサイクル原料

●過去5年間に於けるリサイクル原料収集量の推移

(トン)





2016年度熊本大学環境監査(最終)監査を、
2017年7月28日に実施しました。

→P69-P70



表紙写真/黒髪北地区の五高記念館前の楠に
並ぶ、熊本県下の高校生たち

熊本大学環境報告書編集方針(P4)に添い、
読者にとって分かりやすく、また、より関心を持
っていただくため、本学の研究者に対し教育・研
究の取組状況について、SSH又はSGHの採
択を受けている熊本県内の高等学校生徒が
インタビューを実施しました。

→P17-P24、P37-P42

熊本大学環境報告書 えこあくと2017

編集STAFF *はメイン担当者です。

編集者

山口 佳宏* (環境安全センター)
有江麻里子* (環境安全センター 環境支援室)
内村 玲史 (環境安全センター 環境支援室)
児島香代子 (環境安全センター 環境支援室)

デザイン

鎌崎 廣江* (有限会社ソフトシンク)
米田 良好 (有限会社ソフトシンク)

協力

宮崎 功 (大学教育統括管理運営機構)
川上 修治 (大学教育統括管理運営機構)

本誌に記載されている記事、写真等の無断掲載、
複写、転載を禁じます。

環境マネジメント

- 065 | イメージ図/環境理念/環境方針
- 067 | 体制/規制の遵守状況
- 067 | 環境配慮活動の沿革

環境コミュニケーション

- 068 | 環境報告書「えこあくと」/
- 068 | 熊本大学ホームページ/熊大歌留多と熊大辞典

2016年度環境マネジメント

- 069 | まとめ
- 070 | 2016年度環境監査

環境負荷データ(低炭素スタイル)

- 071 | エネルギー/
- 071 | 温室効果ガス/ガソリン/マイカー通勤・通学者数

えこあくとコラム No.02

えこあくとコラム No.03

えこあくとコラム No.04

環境負荷データ(循環型スタイル)

- 075 | 廃棄物/
- 077 | グリーン購入/紙資源購入量/照明器具類購入量

マテリアルバランス/環境保全コスト

環境負荷データ(自然共生スタイル)

- 079 | 水資源/化学物質管理

えこあくとコラム No.05

社会的取組

- 081 | 安全衛生/
- 082 | 男女共同参画/喫煙対策/ハラスメント防止

第三者意見

(学生との意見交換)

編集後記

◀ Kumamoto University

【熊本大学の樹木】
黒髪北地区 五高記念館前の楠・榎

熊本大学は、地域固有の風土に即した草木の維持・管理、舗装、植栽などを行い、「森の都の大学」のイメージを喚起するような整備を進めています。

黒髪北地区の緑の資材として、「榎、楠、桜並木」などがあり、国指定の重要文化財「五高記念館」周辺では歴史・自然を感じる眺望景観が望めます。

